

林光に寄せる歌



予定曲目

マリー・アブラハムのバラード(詩・長谷川四郎/曲・林光)
魚のいない水族館(詩・佐藤信/曲・林光) ほか

若杉弘びわ湖ホール初代芸術監督が愛用したピアノ、愛称“ピノ”でお届けする新シリーズ。
その第一弾は、林光のソングとピアノ曲をお届けします。



寺嶋 陸也(ピアノ)



中嶋 康子*(ソプラノ)



迎 肇聡*(バリトン)

*びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー

2014年

9月14日(日) 14:00開演
(13:30開場)

滋賀県立芸術劇場 **びわ湖ホール 小ホール**

チケット料金 (全席指定・税込)

一般 **2,000** (1,500) 円 青少年(25歳未満) **1,000** 円 ※()内は友の会会員料金

チケット発売

一般発売:5月31日(土) 10:00~

友の会優先(ネットチケット受付および電話受付のみ):5月29日(木) 10:00~

チケット取り扱い

びわ湖ホールチケットセンター TEL 077-523-7136

インターネット・チケット <http://www.biwako-hall.or.jp/>

チケットびあ TEL 0570-02-9999(音声自動認識) Pコード予約 [Pコード227-397]

ローソンチケット TEL 0570-000-777 Lコード予約 TEL 0570-084-005 [Lコード54698]

e+(イープラス) <http://eplus.jp/> [パソコン(座席選択サービスあり)&携帯]

※都合により、出演者や曲目等が変更になる場合があります。

※6歳未満のお子様はご入場になれません。託児サービスがございません(有料・要申込)。

※お申し込みいただいたチケットのキャンセル、変更はできません。チケットのお申し込み後、ご案内の期限までに所定の

手続きをされなかった場合は、チケットの販売引渡しをお断りいたします

お問い合わせ びわ湖ホールチケットセンター TEL 077-523-7136

(10:00~19:00/火曜日(休日の場合は翌日)、8/12~19休館)



スタインウェイ“ピノ”

託児サービスのご案内

- 対象:1歳以上6歳未満
- 利用料金:お子様おひとりにつき1,000円
- 開設時間:13:30~公演終了後30分まで
- 申込方法:9月7日(日)までにびわ湖ホールチケットセンター(TEL:077-523-7136)までお申し込みください。

びわ湖ホールオフィシャルスポンサー [年間]

叶 匠 壽 庵



スタインウェイ“ピノ”シリーズ vol.1 林 光に寄せる歌

木目調で少し小ぶりなグランドピアノ、1978年製スタインウェイ・ハンブルクモデル。

びわ湖ホールの初代芸術監督、故・若杉弘氏が自宅に置いて愛用し、ヴェルディ・オペラ初演シリーズに出演した声楽家をはじめ、多くのアーティストと稽古を共にしたピアノが、2013年びわ湖ホールに寄贈されました。

びわ湖ホールでは、マエストロ若杉の生前のニックネームにちなんで、このピアノを“ピノ”と命名。その明るくやわらかな響きを存分にお楽しみいただける声楽や室内楽のコンサートを、シリーズでお届けしていきます。

マエストロ若杉がこよなく愛した湖畔の劇場からお贈りする新シリーズ。どうぞご期待ください。

寺嶋 陸也 (ピアノ) Rikuya TERASHIMA



東京藝術大学作曲科卒、同大学院修了。オペラシアターこんにゃく座での演奏や、1997年東京都現代美術館でのボンビドゥー・コレクション展開催記念サティ連続コンサート「伝統の変装」、2003年パリ日本文化会館における作品個展「東洋・西洋の音楽の交流」などは高く評価され、2006年にはタングルウッド音楽祭に招かれボストン交響楽団のメンバーと自作を含む室内楽を演奏した。作曲のほか、ピアノの演奏や指揮など、活動は多方面にわたる。オペラ『ガリレイの生涯』『末摘花』、合唱ファンタジア『オホホ島奇譚』、『尺八・二十絃箏と管弦楽のための協奏曲』、オーボエ・三味線と打楽器のための『異郷の景色』、朗読と箏、室内管弦楽のための『貝の火』など作品多数。『大陸・半島・島/寺嶋陸也作品集』(ALCD-9026)『寺嶋陸也plays林 光』(NARD-5354)ほか多くのCDがある。びわ湖ホールでは、2012年に林 光作曲オペラ『森は生きている』(室内オーケストラ版)を、急逝した作曲者本人に代わって指揮。2014年7月オペラ『ラインの黄金』では編曲とピアノを担当している。

中嶋 康子 (ソプラノ) Yasuko NAKAJIMA



大阪音楽大学卒業。同大学院修了。ドイツでの研鑽から帰国後『第九』や『メサイア』、『カルミナ・プラーナ』などのソリストを務め、数々のオペラ、演奏会に出演している。2008年より、びわ湖ホール声楽アンサンブルに所属。これまでに『魔笛』バミーナ、『森は生きている』むすめ、などを演じた。びわ湖ホールおよび紀尾井ホールでの『ボッペアの戴冠』ボッペア(演奏会形式)や、新国立劇場『三文オペラ』ジェニーは各紙で好評を得た。沼尻竜典オペラセレクション『死の都』(日本初舞台上演/栗山昌良演出)ではユリエッテとして出演の他、マリー/マリエッタのカヴァーキャストも経験した。今春、任期満了に伴い声楽アンサンブルを卒団し、現在、びわ湖ホール声楽アンサンブルソング登録メンバー。

迎 肇聡 (バリトン) Tadatoshi MUKAI



大阪音楽大学大学院オペラ研究室修了。オペラでは各地における『フィガロの結婚』『セヴィリアの理髪師』『魔笛』『コジファン・トゥッテ』『ドン・ジョヴァンニ』『トゥーランドット』『ボエーム』『ドン・パスクアレ』『愛の妙薬』『道化師』『魔弾の射手』『こもり』『森は生きている』『死の都』等に出演。兵庫県芸術文化センター大ホールでのワンコインコンサートや、題名のない音楽会などに出演。びわ湖ホール声楽アンサンブルソング登録メンバー。

林 光さんと びわ湖ホール、そして“ピノ”



作曲家 林 光(1931-2012)は、指揮者の若杉 弘(1935-2009)、声楽家の畑中良輔(1922-2012)、演出家の栗山昌良(1926-)らとともに、戦後日本の音楽界を牽引してきました。日本語によるオペラの追求をライフワークとし、また、演劇や映画の音楽も多数手がけています。

若杉が初代芸術監督を務めたびわ湖ホールでは、ヴェルディの日本初演オペラと並行して、びわ湖ホール声楽アンサンブルのメンバーが出演する自主制作オペラのシリーズ「青少年オペラ劇場」(現在の「オペラへの招待」)を上演してきましたが、その2作目に上演したのが、林 光 作曲のオペラ『森は生きている』でした。

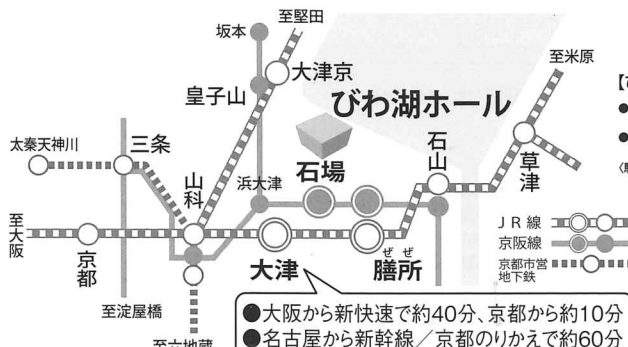
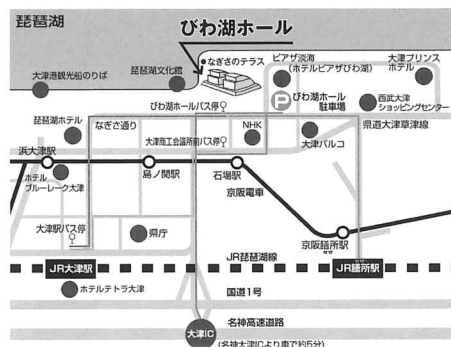
また、若杉自身が指揮する声楽アンサンブルの定期公演「アンサンブルの午後」シリーズで、林の代表作『原爆小景』を取り上げた(林が客演指揮者としてこの曲のみ指揮した)ほか、『森は生きている』のテーマソングとも言える「12月の歌」をたびたびアンコールピースとして演奏するなど、林 光は若杉の大好きな作曲家でした。

若杉の後を継いで芸術監督に就任した沼尻竜典は2009年12月の『森は生きている』の指揮を林に依頼、声楽アンサンブルのメンバーは作曲者本人から親しく指導を受ける機会に恵まれました(この公演で、室内オーケストラの一員としてピアノを弾いたのが林の愛弟子である寺嶋陸也)。さらに、2012年6-7月の『森は生きている』公演では、林が再び指揮をする予定であったものの、惜しくも同年1月に林が他界したため、寺嶋陸也が代わって指揮台に立ちました(この公演で、中嶋康子が「むすめ」、迎 肇聡が「古老」「博士」を演じた)。

『森は生きている』は、現在までに6回(15公演)にわたって再演され、びわ湖ホールが最も大切にしているレパートリー作品のひとつとなっています。

歩く姿が「ピノキオみたい」と言われたことから、同世代の音楽仲間、演劇人たちから「ピノさん」と呼ばれ、親しまれた若杉。その若杉に代わって、びわ湖ホールを見守ることとなった、スタインウェイ“ピノ”。

この“ピノ”による新シリーズの幕開けに、びわ湖ホールと、そして若杉 弘と深い関わりのあった 林 光の作品をお贈りします。



【びわ湖ホールへの交通のご案内】

- JR琵琶湖線(東海道本線)「膳所」駅より徒歩約15分、または京阪電車のりかえ「石場」駅より徒歩約3分
 - JR琵琶湖線(東海道本線)「大津」駅より徒歩約20分、またはバス約7分(びわ湖ホール下車)
- (駐車場のご案内)
有料849台(7:00~23:00)
料金:4時間まで毎時210円

滋賀県立芸術劇場

びわ湖ホール

〒520-0806 滋賀県大津市打出浜15番1号
Tel.077-523-7133(代)
<http://www.biwako-hall.or.jp/>